
本家作家、マイナー作家

新小朗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

本家作家、マイナー作家

【Nコード】

N2223V

【作者名】

新小朗

【あらすじ】

2ちゃんねるに存在する、このサイトのスレッド。

そこには、本家スレッドとマイナースレッドの二つがあった。

マイナースレッド、それは人気の出ない作家達の多くが集まるスレッド。

ひよんなことから、本家作家とマイナー作家の作品勝負が行われる事に

なったのだが……。

発端

2ちゃんねる。それは多くの人々が自由になんでも書き込みが出来る掲示板である。

2ちゃんねるには、カテゴリごとに掲示板が複数に分かれており、その中にソレはあった。

【文芸書籍サロン板】

小説や漫画などを語り合う掲示板である。その中でこの物語の舞台になるスレッドを紹介しよう。

【マイナーの集い 小説家になろう】

現在、君が見ているこのサイトの利用者が集まるスレッドである。但し、普通の利用者が集まるのではなく、マイナーな作品ばかりを投稿している不人気作家が多くを占めるスレッド。

ネガティブな作家もいれば、人気のなさっぷりを逆にアピールする人々までいる。

所謂、底辺の集まりだ。

だが、プライドというモノをほとんど持っていない者達なので、いがみ合うという事はほとんどなく

和気藹々とした雰囲気があり、ネタを振れば全力で多くのマイナー作家達が応えてくれる。

それは、俺にとってとても居心地の良い場所となっていた。

奴らが来るまでは……。

いつものように、マイナー作家スレをチェックしていると一つの書き込みが更新された。

473 自分：この名無しがすごい！「sage」 投稿日：2011/07/26（火） 07:58:31.64 ID:RZQfBXki

マイナースレの住人って、みじめだよな。人気出ないのになんで書いてんの？

なるうのレベルが下がっちゃうから、マジで引退して欲しいいつす

www

てか、誰にも望まれてない存在なんだから、消えてくれよwww

……夏だなあ。それが最初の俺の感想。マイナースレの住人達は、こんな煽りには乗らない。そう思っていた。しかし。

474 自分：この名無しがすごい！「sage」 投稿日：2011/07/26（火） 07:59:31.64 ID:STU0xxuz
<<473

おい、お前調子に乗ってんじゃねーぞ！ うちのマイナー先輩達はマジでつえーから！

実力を隠してるだけだから。マジそこんとこよろしく。ねえ、先輩方？ ここは、いっちょ企画しましょうぜ！

本家なるうスレ作家vsマイナースレ作家の小説優劣勝負バトル

っすよ！

……夏だなあ。それは最初の俺の（ry

同じ人物がIDだけ変えて書き込んだと思われる。まあ、これはネタとして面白いから住人達は乗っつてしまってもいいな。思っ
ていたら案の定

475 自分：この名無しがすごい！「sage」 投稿日：2
011/07/26（火） 08:59:31.64 ID:Ma
inarde

自演乙。俺らは実力がなくて堂々と此処にいる。買いかぶつても
らつては困るな。

476 自分：この名無しがすごい！「sage」 投稿日：2
011/07/26（火） 09:59:31.64 ID:II
janai
<<475

おまw 認めんなw まあ、なんだ。俺的には、本家スレ作家v
sマイナー作家スレっていうのには興味あるけど
具体的にどうするのか。ていうか本家スレの方達はこの事を知っ
ているのだろうか？

477 自分：この名無しがすごい！「sage」 投稿日：2
011/07/26（火） 10:59:31.64 ID:Te
ihende
<<476

本家スレでこの話題持ちきりワロタw こんな事しても、俺ら
マイナー組の圧倒的敗北見えてるのに。

まあ、俺は敗北には慣れているし、むしろ快感すら……

ノリが良いなあ。なんて思いつつも本スレを読みに行くと、マイナースレとは違いガチの雰囲気か漂っていた。さすがは、マイナースレとは違う。すでに勝負方法や採点方法なども討論されていた。それが以下のコピペである。

```
883 自分：この名無しがすごい！「sage」 投稿日：2011/07/26（火） 09:01:32.52 ID:Honkesa
```

じゃー、今までに出たモノをまとめよう。

【ルール】

- ・参加人数は無制限。
- ・作品のタイトルに【vs 本家】等と入れる。 本家スレ住人なら本家。マイナースレ住人ならマイナーと入れる。
- ・テーマは自由。ただし読みきりの短編にする（3000文字以内）

・投稿開始日は三日後。締切日は一週間後。更に一週間後に採点集計。

【採点方法】

なろうの評価システムに準ずるモノとする。

上位10名で、本家作家とマイナー作家での総合評価得点で競う。

【注意事項】

これはネタの勝負であり、実際に優劣をつけるものではない。但し、作品はガチで書き投稿する事。なろうに迷惑となる行為は一切しないこと。

みんなで思い切り楽しもう！

以上の書き込みがマイナースレでも張られ、なろうスレッドは空前絶後の盛り上がりを見せ始めた。

発端（後書き）

マイナーズレ住人の作者です。

この作品もマイナーズレ住人に相応しいモノになると思いますが最後まで書き切る事だけはお約束致します。

それでもボクはキミを守る【vsマイナー】

『1』

世界は混沌に陥った。一人の少女の存在によって。

空気感染する新種のウイルスを持つ少女。

感染した者は気が狂い、周囲を破壊し始める。

最初の一ヶ月で感染者は一億人。

少女は泣いた。最初の感染者である父、母、妹、弟を亡くしてしまったから。

少女は自らの命を絶とうと、首に縄を括り付ける。

「さようなら、ごめんなさい」

椅子から足を踏み出して首を吊ろうとした。

「ふざけるなっ!」

怒声と共に少女は縄から開放された。顔を上げるとそこには、愛する彼氏の泣き顔。

『2』

ボクの彼女は世界の敵。69億5000万人。

彼女の振りまくウイルスは人を狂気の虜にする。それはボクも例外ではない。

ボクは彼女の側にいつもいる。彼女を守る為に。

けれど、ボクは彼女を殺してしまいたくなる。

それがこのウイルス。狂気に囚われる。それを必死に振り払う。

ボクは殺さない。彼女を殺さない。

ある時、彼女は自殺を凶った。自分を犠牲にし、世界を守る為に。

その時、ボクは彼女を助けた。世界を犠牲にし、彼女を守る為に。

ボクは誓う。全世界を敵に回しても、それでもボクはキミを守ると。
と。

三カ月後、ウイルス感染者は十億人を突破した。最早誰も止められない。狂気に満ちたこの世界を。

『』

私は生きていて良いの？ 沢山の数え切れない人々を犠牲にしな
がらも？

もう、死にたかった。生きているのが辛かった。

だけど、彼がそんな私に希望の光を見せるから、死ぬ事が怖くな
った。

周りがどんどんおかしくなっていく。それは彼も例外ではなかつ
た。

ある日、私は彼に首を絞められた。私は彼に殺されるのならと、
抵抗しなかった。

「ふざけるなっ！」

彼が突然叫んだ。私が目を開けると彼は泣いていた。

一年後、ウイルス感染者はいなくなつた。

ウイルスは死滅したのだ。

地球には平和が訪れた。狂気のかけらもない平和が訪れた。

お花畑で私は誰もいなくなった世界で笑ってみせた。

本家作家vsマイナー作家の作品第一号が投稿された。それは意
外にもマイナー作家からであった。

第一号と言う事もあり、アクセス解析を見てみると、かなりの数に
上っていた。

こりゃ、マイナー作家にとって夢のような数字だろう。それにし

ても、一作目の作品はどのような
評価なのだろうか。

俺は、感想欄を読んでみる事にした。

投稿者： J 「2011年 07月 29日 (Fri)
08時 01分 08秒」 50歳〜59歳 女性

良い点

なんというか、色々な意味に取れる作品で色々考えさせられました。
悪い点
もっと具体的に物語にして欲しかったです。まあ、3000文字と
いう制限では難しいかもしれませんが。改定版でそういうの書くの
でしたらぜひ読みますよ！。

投稿者： 権兵衛 「2011年 07月 29日 (Fr
i) 00時 40分 48秒」 - - - 男性

一言

うむ！ まずは一番最初に投稿したという勇気を褒めよう。ウイル
ス死滅したのは、人間が死滅したからってことだな？ でも彼女は
生きているようだ。何故最後に笑ったのか。わからない。
というか、笑ってみせたってことは誰か他にいたのか？ 彼氏か！
？ それならある意味
ハッピーエンドだな。ふむふむ、まあとにかくおつかれさまだ！

投稿者： raou 「2011年 07月 29日 (F
ri) 01時 28分 55秒」 18歳〜22歳 男性

良い点

独特の世界観が良かった

悪い点

やっぱり詩っぽいんで、物語としてしつかり読ませて欲しかったですな。

一言

この作品を基準に今後の作品の優劣を決めていこうと思っています。

感想はまだまだ付きそうな勢いだ。最初のマイナー勢の作品としては、まあこんなもんだらう。

傍観して楽しもうと思っていたが、やはりこうやって実際に祭りが始まると自分もマイナー作家として何かを書きたくなってくる。

もう少し様子を見てから、何か書こうか。そう考えていると今度は本家作家が負けずと作品を投稿してきた。

その作品は。

つづく

最強ですが、何か？【vs本家】

ひよんなことから俺は異世界に転生し、そこで神からチート能力を授かった。

所謂テンプレ部分は省くでしょう。さて、物語は俺がその異世界に降り立った所から始まる。

【最終話 最強ですが、何か？】

俺が異世界で初めに降り立った地。そこは、この世界を混沌に陥れている元凶の魔王が住む城の眼前であった。

この世界は魔王に支配され、人々は苦痛の日々を送っていると神から聞いた。

しかし、まさかいきなり魔王城の前に転生させられるとは……とつととエンディングを迎えろってことか。

とにかく、俺はとつとと魔王を退治して英雄になりハーレムを作つて後世を過ごすんだ。さあ、いざ行かん！

魔王城の中は想像していたモノとは違い、豪華で綺麗で華やかな雰囲気漂うお城となっていた。

もつと恐怖を煽るような薄暗いモノを想像していたのに、なんだこれは。本当に魔王なんているのだろうか。

だが、魔王城の前にご丁寧【魔王城】という看板があったし……。

俺は城の中を歩く。するとすぐに一匹のモンスターに出会う。

「……………って、スライムかよっ！」

そこにいたのは、RPGの雑魚の代名詞であるスライムであった。なぜ魔王城にこんな雑魚が配置されているんだ。普通は終盤の凶悪なモンスターでもがうようよいる筈だろう。ま、まあいいか。神から授かったチート能力がどんなもんか試す良い機会だ。

「悪いな、スライム。一撃でしとめさせてもらうぜ」
「ぴいっ！」

スライムは愚かにも俺に襲い掛かってきた。俺は拳を握り固め、スライムの顔面目掛けて放った。

「うおっ！」

スライムの弾力ある体が俺の拳を跳ね返す。それによって俺の体制が崩れた所に、スライムが腹目掛けて体当たりをして来た。

「ぐええっ！」

蹲る。超痛い。なんだこれ。なんでスライムにこんなダメージを受けなきゃいけないんだ。

そ、そうか。まさかこいつがスライムの形をした魔王なんじゃ……。じゃなきゃ、チート能力を持つこの俺がこれほどのダメージを受ける訳がない。

「はは……あ、あんたが魔王だったとはな……うっ！」

汚物を吐き散らす。相当キテいる。いくら魔王が相手でも、このダメージはないんじゃないか。

チート能力って、魔王すらも楽勝に倒せるぐらいだと思ったのに、

こんなもんかよ。

「ぴーっ！」

魔王が叫ぶ。そして逃げていく。あれ？ 俺に恐れをなした？
そう思った時、背後から殺気が……。

「ぎゃーっ！」

そこには、超巨大なモンスターがいた。10メートルはあるだろうが、ゴーレムのような奴だ。

いや、そんな事よりも何故魔王は逃げた？ この巨大なモンスターに怯えて？ そんなまさか……。

「ブオオーツ！」

巨大なモンスターが俺目掛けて突然拳を振り下ろした。
チート能力を得た俺なら、片手で軽く雑魚モンスターの攻撃など受け止められる筈。

だが、もしも。

「ひいっ！」

俺は逃げた。無様にも。必死に走り、物陰に隠れる。

もしも スライムが魔王じゃなかったら。ただの雑魚だったら？

もしも 俺がただ弱いだけだったとしたら、俺はあの巨大モン

スターに捻り潰されていた。

やばいやばいやばい、やばいよこれマジで。神の野郎、全然チート能力なんて授かってねーじゃんか！

俺はそつと戻るボタンをクリックした。うーん……、本家といえは転生異世界ファンタジー等々っていうのはわかるが、この作品は俺的には低レベルで読むに耐えなかった。

本家といえども、やはり底辺作家も沢山いるのだろう。これはマインナー作家がまさかの勝利をする日が訪れるかもしれない。そう考えていたのだが、しかし。

翌日、【最強ですが、何か？】の感想数、評価ポイントとも【それでもボクはキミを守る】を遥かに越えていた。そして、その結果が波紋を呼び2chは大荒れを始めていた。

32 名前：既にその名前は使われています「」 投稿日：2011/07/30(土) 18:56:48.47 ID:FTa88TiH

なんで、最強ですが、何か？ っていう本家作品がそれボクの5倍近い評価を得てんだよw

そんなに差があるようには全く見えなかったぞ。工作だろ、これ！

35 名前：既にその名前は使われています「」 投稿日：2011/07/30(土) 19:56:48.47 ID:Tano sina

<<32

そうか？ 俺は結構好きだったぜ最強何か。流行に乗っているし、差がついても全然不思議じゃないと思うが。

39 名前：既にその名前は使われています」 投稿日：2011/07/30(土) 20:56:48.47 ID:Mott oyare

マイナー作家ども、嫉妬乙w 事実事実として受け止めるよ。まあ俺から言えることは、もっと頑張ってくれないと張り合いがないぜマイナー諸君。ってことだww

45 名前：既にその名前は使われています」 投稿日：2011/07/30(土) 21:56:48.47 ID:FTa88TiH

俺の感性がおかしいのだろうか……。自分がわからなくなってきた

……orz

46 名前：既にその名前は使われています」 投稿日：2011/07/30(土) 22:56:48.47 ID:NARI yuki!
ID:FTa88TiHのライフは0よ！ もうやめたげて！

……マジか。俺もID:FTa88TiHと同意見だった為、散々叩かれているID:FTa88TiHに驚いた。

作品の捉え方は人それぞれ。自分がこっちの方が上だと思っても、それが多数派になるとは限らない。

俺もいつの間にか少数派の人間になっていたようだ。

やっぱり小説投稿するのは、恥をかきただけだから辞めておこうかな……。

そう考えが過ぎった時、3番目の作品が投稿された。それは、マイナー作家の作品であり、俺がマイナー作家代表として作品を投稿しようと思つたようになる作品でもあった。

つづく

かくげー！【vsマイナー】

対戦型格闘ゲーム。それは1980年代から存在し、1991年のカプコンの『ストリートファイターII』により、複雑な駆け引きのできる対戦を前提としたゲームシステムが完成。この作品の爆発的なヒットにより、1990年代に対戦格闘ゲームは一つの大きなブームを巻き起こした。数々の亜流ゲームが作られた以外に、格闘ゲームを原作とする実写映画やアニメが何本も作られ、1993年に始まったK-1など現実の格闘技人気にも大きく寄与した。また、アーケードゲームとして人気だった格闘ゲームは家庭用ゲーム機に移植され、キラードソフトとして家庭用ゲーム機の普及に大きく貢献した。

しかし、対戦格闘ゲームは当初は爆発的ブームとなったが、各シリーズの新作とともにシステムも複雑化し、ポリゴン技術による3D化を除いて革新がなかったことも手伝い、徐々にマニア向けなジャンルとなっていた。今では、格闘ゲームの人気は下火になりつつある。

そんな中、格闘ゲーム業界を盛り上げようと、ある企業が立ち上がる。全国の高校生を対象に対戦格闘ゲーム全国大会を主催したのだ。

使用するゲームソフトは、新作対戦格闘ゲーム『下克上!』。現在多く出ている格闘ゲームを平均化したようなソフトである。ルールは5人1組のチーム戦での総当たり戦。使用するキャラクターはランダムセレクト。それぞれの都道府県で一組（東京・大阪は二組）が全国大会に出場できる。そして、全国大会では、なんとその様子が全国中継されるといふ。

今、対戦格闘ゲームの人氣が再燃しようとしていた。

あらずじを読み、俺はマイナーらしい作品だと感じた。格闘ゲームを題材にした小説。

一部のピンポイントの読者にしか伝わらないだろ。そう思いながらも続きを読むと、キャラクターに中々個性が備わっていると俺は感じ始めた。キャラクターは以下の通りだ。

^{ウミハラ}主人公はオタク。高校生。学校以外では部屋に引きこもってアニメやゲームばかり。

格闘ゲーム大好きのおタクの同級生。格闘ゲームの大会に出るにはメンバーが一人足らず

格ゲーの有名人の一字違いから勘違いされ、ウミハラダイゴがメンバーへ。格ゲーは、ほぼ素人。

メンバー

主人公『海原大吾』MMORPGとアニメをこよなく愛するおタク。ひよんなことから格ゲーの世界へ。

格ゲー初心者にもわかりやすくする為の役割を担っている。初心者と共に成長していく。

格闘ゲーム部、大将『神藤 佳代』。格闘ゲームをこよなく愛する。全てにおいて格闘ゲームが優先される。天真爛漫、無邪気な性格で強い相手との対戦には、わくわくするサイヤ人的存在。

勝ち負けよりも、どれだけ素晴らしい勝負ができるかを重視してい

る。格ゲー暦、わずか三ヶ月。目に見張る成長を見せる。

「強いなー！　すごいなー！　わくわく！　わくわく！」

部長兼副将『宮村　カナ』。佳代とは対照的に、勝つ為だけの試合をする。部活のまとめ役。

頭脳明晰で、策略家でもある。勝たなければ意味がないというのが信念としてある。

「部長の私が負ける訳には、いかないのね」

中堅『最京　詩音』。最弱キャラ使い。自らにハンデを課し、逆境から勝ち上がる事に快感を覚える変態。

その性格故、3番手に甘んじているが、本当の実力は未知数。性格は悪魔。相手の心を折る事に関しては右に出る者はいない。どS。相手と差がある程、ハンデをつける為、よく負ける。

「ほらほらあ！　さっきの威勢はどうしちゃったのかしらあ！？」

「へえ、貴方の歪む顔が楽しみだわ」

次峰『幸村　薫』。部員の中でもダントツの可愛さを持つ。だが、男だ。

女よりも女らしく、ナンパされることも多い。

勝負よりも盛り上げる事を優先するエンターティナー。

勝つ事しか考えていない部長とよく対立をする。

「試合に勝つても、場が盛り上がらなかつたらそれは負けと同義じゃないですかあ？」

先鋒『海原　大吾』。ゲームアニメオタク。格ゲーに関してはほとんど素人。格闘ゲーム界で強いと

有名な人と名前が似ている事から勘違いされ、無理やり入部させられる。転校生。

「だからボクは格ゲーなんてほとんどやったことないんだよ！」

補欠『神宮寺 祭（SAI）』人前だと緊張してしまい、実力を全く発揮できない。

しかし、顔の見えないネット対戦では佳代すら凌ぐ強さを発揮する。部室内では、常に一人で

オンライン対戦に没頭している。

「……（こくん）」

部活内ランキング戦あり。それによって先鋒と大将が変化。

そして、物語は短編3000文字で収めようと初の大会からスタートした。

初の大会、一試合目。大吾は初心者でありボロ負け。薫は、場を盛り上げる事に力を入れすぎて敗北。

二人の負けで追い込まれるチーム。相手チームからは失笑。

「ほとんど女ばかりの初心者集団かよ（笑）」

三人目、詩音。自分が負けたら終わりという状況に興奮。5本先取制で4本を落としてしまう。

相手チームも会場も詩音の負けを確信する。

「みんなごめんね……、私にもっと実力があつたら……」

詩音は俯いたまま、か細い声で言う。普段は見せない詩音の弱々

しい姿に大吾の胸はきつく締め付けられる。
ゲーム如きでこんなにも悲しく、そして悔しい思いをするなど、大吾は考えもしなかった。

「はははっ！ 女が格闘ゲームなんて所詮無理な話っしょ！ さ、あと1勝で俺の勝ちー。とっとと決着付けようか？」

宮路はガムを汚らしくクチャクチャと噛みながら、スティックを握り直した。詩音も同じくスティックを握り直し、5本目の試合が始まった。

5本目の試合、それはあまりにも一方的な展開となった。

全く手も足も出せず、ただの一度も相手に攻撃を当てる事もなく、パーフェクトで敗北した。

その実力差は、あまりにも開きすぎていた。まさに瞬殺だった。無念そうにゲーム画面のキャラクターが無残にも倒れている。

宮路の操るキャラクターが。

「な、な、な、そんな馬鹿なっ！？」

宮路は目をまん丸にして、パーフェクト負けを喫し倒れている自分のキャラクターを見つめていた。

「フフフッ……」

不意に詩音の笑い声が宮路の耳に届く。

「ばあーかあっ！ 勝てると思ったー？ あはっ！ あははっ！
今までずーっと手を抜いてあげてたんだよー？」

ねえ？ 自分が強いと思った？ 思っちゃったの？ ねえ、ねえ？
今どんな気持ちですか？ あははっ！」

詩音は完全に相手を馬鹿にした口調で言葉を吐き出す。宮路はわなわなと震えだし、大声を上げた。

「ふざけんなあーっ！ 今のはただの偶然だ！ 大体まだ4 - 1で圧倒的に俺が勝ってるんだ！」

舐めてんじゃねーぞ！ すぐに終わらせてやっからなー！」

「あはっ！ 全ての攻撃を見切られて、ダメージ一つ与えられなかったのに、偶然？ じゃー、偶然でこっから逆転しちゃおっかなー？」

「て、てめえ！」

その後、相手を全く寄せ付けない強さを見せ大逆転。副将の力ナも5：3で華麗なコンボが決まり勝利。

そして大将对決も圧倒的な差で佳代がストレート勝ち。

そこで物語は終わっていた。正直に言えば、物足りなかった。

完全版が読んでえっ！ こういうマイナージャンル大好きなんだよ、俺っ！

と嘆いていると、あとがきに嬉しい書き込みがあった。

後書き

この度は私の稚作を読んでもいただきありがとうございました。

この作品は、元々連載中のモノを読みきり用に再編したモノです。

もしこの作品を読んで興味を持っていただけた方がいたら、ぜひ連載中の作品を読みにお越し下さい。

うおおっ！ とテンションが上がる。完全版があるんじゃないか。というか、これはうまい宣伝方法だ。今、この祭りは盛り上がり自然とアクセス数が跳ね上がる。

今日は目の目をみていない作品も、この方法でならば……。そこで俺は思いつく。連載をしたが、あまりにも反応がなくて途中で挫折してしまっていた作品をこの祭りに乗じて復活させられないだろうか。

俺は決意した。自分の挫折した作品を祭り作品用に再構築し投稿しよう。

そして祭り自体もある作家の登場で更に加熱することになる。

それは4番目の本家作家の作品だったのだが、その作者は「なろう」の総合ランキング100位内の作品を持つランカーであった。

つづく

超自由度RPG【vs本家】

いらつしゃいませー！ アナタは丁度100番目の勇者様です。

さあ、この世界を救う為に魔王退治の旅に出発して下さい。

はい

いいえ

「いいえ」を選ぶと思っていましたよ。どんな反応をするか見たかったんでしょう？

全く、いじわるな人だ。さあ、今すぐ魔王退治の旅に出発して下さい。

はい

いいえ

普通ならまた同じ台詞が流れて無限ループとなるところですが、このゲームは自由度が売りなので他とは違います。

って、そんな事はどうでもいいのです。早く、魔王退治の旅に出発して下さい。

はい

だが、断る

ですよー！ 新たな選択肢が出ちゃったら、そりゃ選ばざるを得ないですよ。

このまま、「はい」を選ばなかったらゲームオーバーですよ。さあ、魔王退治の旅に出発して下さい。

はい

めんどくさい

ちよつw めんどくさいってなんですか！ 冒険に出たくないんですか。

なんの為にこのゲームソフトをあなたは購入したんですか！ ほら、そろそろ「はい」を選らんで下さい。

いいえ

いいえ

えええっ！？ とうとう選択肢から「はい」が消えちゃったよっ！ どう言う事なのよこれ！

もうこれは、リセットボタンを押す以外にないですね。あなたがさつさと冒険に出ないのがいけないんですよ！

うっさいピザハゲ

うえええええええええええええええっ！？ 最早選択肢じゃないですよ！ ただの私に対する悪口じゃないですか！

そもそも、私はピザでもハゲでもないですからっ！ こう見えても美少女なんですよ。

付き合ってください

ちよつ、会話しないで下さいよ！ あと、私は素直じゃない人は嫌いなので付き合えません！

はい

いいえ

今更！？ 現金ですね！ ま、まあいいでしょう。ふう……それでは、冒険の旅に行つてらっしゃいませ。

アナタは、魔王に平和を脅かされている世界の住人です。まずは、アナタの冒険がスタートする場所を選んで下さい。

機械の街

武力の王都

辺境の村

スタートしない

え！？ なんでそんな選択肢が……。開発者は一体なにを考えて……。い、今のはなしです！ もう一度選び直して下さい！

機械の街

武力の王都

辺境の村

君の隣

はいつ！？ わ、私の隣！？ な、なんなんですかこの選択肢は！ 開発者さんどうなってるの！！
なしです、なし。もう一度選び直しますっ！

君の隣で

一緒に笑顔で

甘い時間を

過ぎたい

怖いわっ！！ あ、いや……プレイヤーさんが怖いって訳じゃありませんよ。

こんな選択肢を用意した開発者さんが怖いという意味です。というか、すいませんね。

中々ゲームが始まらなくて。では、こうしましょう。こちらでスタート地点は適当に決めます。

はい

いいえ

あの、いつまで経ってもそれだと始まりそうにないので。だからお願いします。

はい

付き合ってくれたらいいよ

……うわぁーん><

勇者「ああああ」よ。あなたの性格は「ひねくれ者」です。

超自由度RPGは、テキスト文字数が一億を超え選択肢が数え切れない程に存在するゲームソフトである。

そして、発売されてから3年。未だに魔王退治を成し遂げた者はいない。

村人一人との会話一つとっても、無数の選択肢やルートが存在し、

ユーザーは先に進むよりも会話を楽しんでしまう。
まるで人工知能を持ったキャラクターと会話をしている錯覚に陥っ
てしまう。

ユーザーの中には、気に入った村人と結婚まで持って行き子供まで
作って平和に暮らすという生活を続け
冒険をやめた者までいた。

また攻略サイトはとんでもない事になっている。あまりの自由度
の高さに、情報量は膨大に膨れ上がり
まさに、プレイヤーそれぞれが全く違うストーリーを楽しんでいる
のだ。

84 名前：この名無しがすごい！「sage」 投稿日：201
1/08/01(月) 15:11:22:19 ID:NoMM
ORPG

誰かー、北国の街の雪解けイベント攻略方法教えてー

85 名前：この名無しがすごい！「sage」 投稿日：201
1/08/01(月) 16:11:22:19 ID:Yess
FAEA

あー、俺は北国の街は滅ぼしちゃったからそのイベントやってねーや

86 名前：この名無しがすごい！「sage」 投稿日：201
1/08/01(月) 17:11:22:19 ID:HIDU
KEHA

北国の街の王になったんだけど、雪解けイベントなんて知らないなー

87 名前：この名無しがすごい！「sage」 投稿日：201
1/08/01(月) 18:11:22:19 ID:Henk
Ouga

北国の街は760万人キャラがいますが、その内の一人「TANA SU」ってキャラに話しかけて

選択肢を「はい」「手伝う」「家にお邪魔する」「お茶が苦しい」「戦う」「奪う」「娘さんを下さい」

「浮気なんてしてない」「ごめんなさい」「子供の名前を自分で決める」「旅行に出かける」「愛している」

「離婚する」「慰謝料を払わない」「弁護士に相談する」「気分を変える」

という選択肢を選んでいけば、雪解けイベント発生するみたいだな。攻略方法はまだわかってない。がんばれ！

途方もないゲーム。そんなゲームに果たしてクリアはあるのだろうか。

そしてこの物語にもクリア（オチ）はあるのだろうか。きっと、ないだろう。

世界は無限に存在しているのだから。

面白かった

オチなしなんて最悪じゃねーかw

……ふう、読み終えた。本家作家二人目かつランカーの作品。ランカーらしく「勇者」や「魔王」「RPG」

というキーワードを使った作品だった。俺個人としては、中々面白いと思っただがギャグ作品というのは

好みが大きく分かれる。ハマれば面白いがハマらなければとことん寒い作品と捉えられるからだ。

掲示板を覗くと、早速【超自由度RPG】の感想が書き込まれていた。

256 名前:この名無しがすごい!「sage」 投稿日:2011/07/31(日) 5:24:19.42 ID:Mendo o i y o

【超自由度RPG】について、どう思うよお前じ。
俺は寒くて仕方なかったんだが。そつと戻るボタン押しただぜ。

259 名前:この名無しがすごい!「sage」 投稿日:2011/07/31(日) 5:54:19.42 ID:Sigoto y a d a

俺は結構面白かったw ああいうノリは好き。てか、このゲームマジでやりてーw

266 名前:この名無しがすごい!「sage」 投稿日:2011/07/31(日) 6:24:19.42 ID:Ikita k u n e e

本家作家らしいといえば、らしい作品ではあったなあ。

てか、この作者ランカーだよな何気に。お気に入りポイント8000以上の人気作者でしょ。

その割には……って感じかな。まあ、お祭り作品だしサクッと書いたっばいね。

276 名前:この名無しがすごい!「sage」 投稿日:2011/07/31(日) 7:24:19.42 ID:Natu

k i r a i

今までに出た本家作家作品とマイナー作家作品をまとめてみた。あと評価ポイントも。

評価ポイント順。

【最強ですが、何か？】 420pt (本家作品)

【超自由度RPG】 120pt (本家作品)

【それでもボクはキミを守る】 87pt (マイナー作品)

【かくげー！】 40pt (マイナー作品)

やっぱり本家つえーな。しかも超自由度RPGはまだ掲載されてから数時間しか経ってないんで

もっとpt伸びていくだろうし、マイナーオワタ感が半端ねえwww

279 名前：この名無しがすごい！「sage」 投稿日：20

11/07/31 (日) 7:29:19.42 ID:Onak

aitaiyo

<<276

まとめ乙。マイナーどうしたー。もっと頑張れよー！盛り上がりがないぞ、このままじゃー！

マイナーの底力を見せてくれー！

マイナー勢が圧倒的に劣勢の状態だった。むう……、だがしかし安心してくれみんな。

この俺の作品が必ずマイナー勢を救って見せる！俺は、自分の作品を書き上げる為に「なるつ」サイトに

ログインした。これから更に本家作家が怒涛の作品ラッシュを仕掛けてくる事も知らずに。

UJU

死ね！ 糞親父！【vsマイナー】

俺の親父は気が狂っている。頭がイカれている。糞虫同然のゴミ野郎だ。

俺が28歳の頃、糞親父が一人暮らしを満喫している俺の家へやって来た。

約4年ぶりの再会だ。

「吉昭……久しぶり」

「……（なんだこのデブは？）」

糞親父はぶくぶくの豚のように太り、乞食みたいな格好をして俺の前に現れた。

「太ったな」

「……」

「はあ！？ てめえーが言うなよ！ てめえこそ、なんだその豚みたいな太り方は。」

「ふざけんじゃねーよ。大体今更来てなんなんだよ。散々放って置いてくせによ！」

「実は、もう駄目なんだ。会社辞めてな……もう生きる気力がないんだ」

「……」

「なにいきなり語りだしてんのこいつ？ マジでござい。すぐに目の前から消えろや！」

「部屋に上がってもいいか？」
「……」

意味がわからない。なんでお前みたいなゴミを入れなきゃ行けねーんだ。ふ・ざ・け・ん・な！

「……そうか。じゃー今までありがとな」

何がありがとな、だ。さっさと帰れハゲ！

「どっかの川から死体で発見されても知らない人って言ってくれればいいから」

そんな捨て台詞を吐いて去ろうとする。何今の？ 脅し？ なんなの、この蛆虫は？ はあ！？

「待ってください」

俺は引き止めた。そして家へと入れた。冗談じゃない。なんだよ、俺のせいで死ぬってか？ あ？
それが子供に対する台詞かよ！

「お邪魔します」

親父は厚顔無恥にも部屋へと図々しく入ってくる。そして……

「臭いな」

はあああああああああ！？ 人の部屋に入って第一声が「臭い」

だと！？ なんなのこいつ！？
マジでなんなんだよ！ 常識つてものを知らないの？ 頭イカれてるんですか？

「もう、金がなくてなあ。家賃も払えないんだ。だからホームレスになるしか……うつつ……」

泣き始めた。50歳を超えたおっさんが。親父が。気色が悪い。反吐が出る。

「お前、今は仕事何やってんだ」

何こいつ調子に乗り始めてんの？ お前なんて、てめえに呼ばれたくねーんだよ！！

「日雇いだけど」

「……はあ、お前が日雇いなんてなあ……家族駄目になるときは一緒なんだなあ」

……もうなんなの。

「金貸してもらえないか」

出た。本性が出た。結局俺の目の前に現れたのはそれだ。ははは、うぜー！ まじでうぜえ！

「ないよ」

「そつか……じゃあ自殺するしかないかあ」

あああああああああああああつ！！ よく平気で子供の前でそ

んな台詞が吐けるなっ！

マジで嫌だ。本当に嫌だ。なんでこんなゴミみたいな奴の子供なんだよ俺は！ うああああああああ！

「わかったよ。俺が家に戻るよ」

「そうしてくれると助かるんだけどねえ」

「だから戻るって」

「ありがとう、ありがとう」

……俺の人生終了だ。こんなキチガイと一緒に暮らさなきゃいけないのだから……。

その後、俺は一生懸命働き、親父は家でゴロゴロしながら俺が与えたWiisポーツで毎日遊んでいた。

親父がやる事といったら、飯を作る事だけ。親父は飯を食わせてやっているという

マイノリティーが欲しかったのだろう。食わなければ怒鳴られた。だから俺は他で自分の好きなものを食う事が出来なかった。

ある日、俺が「このままでいいの？ 頑張って仕事しなよ」と言っただ事がある。

そしたら親父は「今まで散々頑張ってきたんだよ！ もういいんだよ！」と来た。

俺は一体何のためにこの豚を助けているのだろうか……。

俺は耐えた。ひたすらに耐えた。親父は日頃から

「ああ、もう死んだ方がいい！」

「あー死ぬぞ！ 死んでやるからな！」

「なんかいいことないかなー。つまらない人生だ！」

「どっか行きたい！」

「死ぬっ！ ああっ！」

などと突然叫び始めたり、体が弱ってきた同情してくれアピールを良くしてきた。

最も腹が立ったのが、悲劇の主人公にでもなったかのような発言の数々だ。

俺は心の中で思っていた。

なんの努力もしていない人間が幸せになれる筈がないだろ。文句ばかり言って何もしない。

お前に生きる価値なんてねーんだよ。死んでやる？ 早くしろよ。

お前は何年同じ台詞を言ってるんだ？

いい加減にしろよ、カスが！！

それでも俺は家から出て行けない。

親父だから。

144 : この名無しがすごい！「sage」 投稿日：2011
/07/31(火) 19:38:00.28
ID:swz01fgA

死ぬ父は、スゲー気持ちが悪くわかった。ほんつとに屑の親父って
いるからね。

俺の親父もそうだったから。ほんつとつとつとつとつとに屑だった。

今はもう死んで、いなくなった。たまーに寂しくなるのは内緒。

146 :この名無しがすごい!「sage」 投稿日:2011
/07/31(火) 19:58:00.28
ID:Oyazikirai

訴えてくるねー。だが、俺は物語が読みたいんだ。こーいう独白モ
ノはNO! THANKYOU!
マイナー作家よ、こんなんじゃ評価点はもらえないぞ!

249 :この名無しがすごい!「sage」 投稿日:2011
/07/31(火) 23:38:00.28
ID:Kekkadayo

今までに出た本家作家作品とマイナー作家作品をまとめてみたパ
ト2。あと評価ポイントも。
評価ポイント順。

【最強ですが、何か?】 520pt(本家作品)
【超自由度RPG】 450pt(本家作品)
【それでもボクはキミを守る】 100pt(マイナー作品)
【かくげー!】 50pt(マイナー作品)
NEW【死ね! 糞親父!】 6pt(マイナー作品)

250 :この名無しがすごい!「sage」 投稿日:2011
/07/31(火) 23:40:00.28
ID:Honkesaikyo

死ね父、逝ったー!! マイナー勢と本家勢の差が更に開いとるww

マイナー勢に救世主は現れないのか！？
一人ぐらい本家と肩並べ
る作品出してくれよー
圧勝に終わっちゃうよー！

つづく

我輩は勇者である【vs 本家】

我輩は勇者である。名前は、ゴン・テラーホという。

ある朝、目が覚めると我輩が住んでいた筈の世界は消え、そこには見たこともない世界が広がっていた。

石の絨毯があちらこちらに敷かれ、その上を鉄の塊の巨大な怪物が猛スピードで走っている。

「よし、退治してくれようぞ」

我輩は、拳程の石を拾い鉄の怪物目掛けて投げつけた。すると怪物は、他の怪物に衝突し、それが連鎖していく。

たった一つの石ころで、多くの怪物を仕留める事に成功した。それが、我輩が勇者である所以である。

「ちよっ！　じいさん、何してんだ！」

「む？」

何やら、見慣れない変な格好をした若者が我輩を取り押さえようと襲いかかってきた。

笑止千万！　我輩の聖剣エクスカリバーの餌食にしてくれるわ！

聖剣エクスカリバーで若者を斬りつける。

「あぶねっ！」

「なにっ！」

驚いた。若者は我輩の聖剣エクスカリバーを片手で受け止めた。こんな芸当が出来るのは……。

「貴様、魔王かつ!」

「はあ?」

「うぬぬ……我輩が魔王に挑むには、まだ力不足ということかつ!」
「おいおい、何言ってるんだよ。じいさん」

我輩は奪われた聖剣エクスカリバーを諦め、退散することに決めた。

が、しかしまわり込まれてしまった。

「くっ!」

「じいさん、杖は返すけど振り回しちゃいけないぜ」

魔王は何を思ったのか、聖剣エクスカリバーを我輩に差し出してきた。何かの罠か?

罠だろうと、これはチャンス! 隙だらけだぞ、魔王よ!

「きえええっ!!!」

聖剣エクスカリバーを受け取りすぐさま、魔王の脳天目掛けて振り下ろした。

「だからやめろって!」

「ぐはっ!」

魔王の渾身の一撃が我輩の体を貫いた。

我輩の体はスローモーシヨンのようにゆっくりと倒れ、地面に伏し

た。

「お、おいつ！　じいさん大丈夫か!？」

返事がない、ただの屍のようだ。

享年85歳　佐藤　武雄　ご臨

終

250　.:この名無しがすごい!」sage」　投稿日:2011
/08/1(水)　3:40:00.28

ID:MukasiMukasi

本家三番手キター！　短いながらも、ドン・キホーテを思わせる物
語は傑作だったぜー！

251　.:この名無しがすごい!」sage」　投稿日:2011
/08/1(水)　3:50:00.28

ID:Arutokoroni

自演乙。

252　.:この名無しがすごい!」sage」　投稿日:2011
/08/1(水)　4:00:00.28
ID:Onesannnto

だが、評価点はマイナー勢よりも遥かに高くなるんだろうな。

253 :この名無しがすごい!」sage」 投稿日:2011
/08/1(水) 4:10:00.28
ID:AVdanyuga

あのさ……これは言っちゃいけないことかもしれないけれど……
今まで出た祭り作品は本家もマイナーも関係なく

糞つまんなくね?

254 :この名無しがすごい!」sage」 投稿日:2011
/08/1(水) 4:20:00.28
ID:imasita
<<253

うわああああああ! お前! 祭りを盛り上げる為にこっちは
触れないようにしてたのに!

255 :この名無しがすごい!」sage」 投稿日:2011
/08/1(水) 4:40:00.28
ID:AVdanyuha
<<253

はっはっは、ご冗談を。……はっはっは。

256 :マイナーの救世主」sage」 投稿日:2011/0
8/1(水) 4:41:00.28
ID:Sibakareni

おい、本家のためーら! お前らの天下もこれまでだ!
このマイナーの救世主である俺の作品がたった今完成した!
いいか、これから投稿する。覚悟しておけ!!

つづく

呪いのゲームソフト【vsマイナー】

八月十日 午後八時三十三分 練馬区

鬱蒼とした森の木々のように、十四階建てのマンションが数棟立ち並んでいる。

その内の一棟の新築のマンションは、北西に走る一方通行の道に接してオートロックの入り口があり、常に監視カメラが作動していた。

そのマンションの五階、501号室のリビングでは大人が五人は座れるであろう

大きな黒い牛皮のソファーに腰を掛けて、42V型ハイビジョンプラズマテレビを愉しむ葵の姿があった。

私立女子高校三年の北島 葵は、白いTシャツにジャージパンツというラフな格好で

ポテトチップスを口に運んでいく。床に置かれた扇風機の風が葵の長く艶やかな髪を靡かせる。

テレビの大きな液晶に映るのは、若手のお笑い芸人。葵の好きな芸人であった。

家の中には、葵以外にはペットのミケ猫がいるだけで人間はいない。

葵の両親は田舎に住む父の母、つまり葵にとっての祖母が倒れたという一報を受け、帰省していた。両親は葵も連れて行こうとしたが、葵自身が

「一人でも大丈夫だから。それにこれでも受験生だし、勉強しなきゃ」

と言うので、心配ではあったがいくらかのお金を置いていき、葵に留守番を頼んだのだった。

「あははは！ 超ウケるんですけどー！」

しかし、葵は勉強などせずにも今もこうしてお笑い番組を見ながら大笑いしていた。

つまるところ葵が残ったのは、自由気ままな一人暮らし気分を満喫しかっただけなのだ。

番組が終わると葵は特にやりたい事もなく退屈な時間を持て余していた。

両親が田舎に帰省すると決まった時、葵は片っ端から友達に家に泊まりで遊びに来ないかと誘ったが、全員に受験勉強で忙しいと断られたのだ。

……友達より勉強を取るなんて酷い奴らよね

と葵は勝って極まりない言葉を心の中で吐き捨てた。

退屈な葵は4LDKの一人では広すぎる部屋を見回す。すると一つのモノに目が留まる。

それは父が趣味で集めている古いゲーム機だった。父はカセット式の古いゲーム機を好んで集めていた。

普段はゲームなど全くしない葵だったが、暇潰しには良いかとゲーム機を起動させる。

コントローラーを手に取りテレビ画面を見る。

ゲームソフトが入っていません。ソフトを入れてください。

テレビ画面に表示された文字。それを見て初めて葵はゲーム機だけではゲームが出来ないことを知った。

葵はゲーム機の近くにソフトがずらーっと並べられているラックを発見する。

葵の父は几帳面で購入日が記されたシールがソフトに貼られており、きちんと購入日ごとにソフトが並べられている。

葵はその中で今日の日付けが貼られていたソフトを取り出す。どうせやるなら一番新しいソフトを、という単純な理由で葵はそのソフトを選んだ。

そのソフトのパッケージには【Curse adventure】と赤い文字で書かれている。

そのソフトをゲーム機本体に差込み電源を入れると、テレビ画面にパッケージと同じタイトルが表示された。

タイトルの下には、ドット絵キャラの女の子が右から左へと歩いている。

このキャラクターは可愛いなと葵は思った。が。

ぼとり。と女の子の首から上が落ち、低く籠もった笑い声が。

「え？」

葵は背後を振り返る。だが、別段何もない。

「気のせいよね……」

葵は背後から笑い声が聞えたような気がしていた。

テレビ画面にはタイトルと首を失った女の子。そしてスタートの文字が記されてあった。

葵の親指がスタートボタンにかかる。それは怖いものみたさから来る衝動だったのか、気持ち悪いと思いつつも葵はスタートボタンを押した。

「痛っ！！」

スタートボタンを押したその刹那、コントローラーを持つ指先にバチツと静電気に似た痛みが走った。

コントローラーを持つ指先に目をやるがケガなどは一切ない。葵の戸惑いを無視してゲームはすでに始まっていた。暗く不気味なBGMが流れ、一人の女の子キャラクターがぼつんと立っている。それはタイトル画面に出てきた女の子だった。

葵は自分の手を気にし、ゲーム画面を見ていない。操作されずにプレイヤーキャラとなる女の子は立ち止まったままだ。

すると右画面から敵キャラクターらしきお化けのような白いフワフワとしたドット絵キャラクターが

左画面の隅っこで佇んでいるプレイヤーキャラに迫る。

葵はやつと視線をテレビ画面に向けたが、プレイヤーキャラは敵キャラに接触し点滅して消えた。

「ああああっ！！」

突然葵は悲鳴を上げコントローラーを投げ捨て右手の甲を左手で押さえる。

「ううっ!!」

そこからは、紅い鮮血が流れていた。

痛いっ痛いっ！ なんなの！ なんなの！？

葵は自分に起こった出来事が理解出来なかった。

しかし、ゲームキャラクターが敵キャラクターに接触した瞬間に激しい痛みを襲われた。

それはつまり……。葵は恐怖よりも理解不能で理不尽な状況に怒りが込み上げてきた。

だが、そんな怒りもすぐに引込む事になる。画面を見るとプレイキャラは復活しており、再び敵キャラが迫っていたのだ。

咄嗟に葵は投げ捨てたコントローラーを手に取り敵キャラから逃げようとした。だが。

「どうやって操作したらいいのよ!!」

ゲームをした事もなくソフトの説明書すら読んでいない葵は、どう操作すればいいのかわからなかった。

適当にガチャガチャと動かすがプレイヤーキャラは逃げるところか逆に敵に近づいて行く。

そして再び敵キャラに接触してしまった。

「ぐっああおおっ!!」

先程よりも一段と大きい声で葵は叫んだ。その声はあまりにも低く、男の声と間違えう程のモノだった。

「いやだ……いやだあ……」

葵はソレを見て恐怖と激痛によりソファを濡らした。

葵の目線の先、そこには 有り得ない方向に曲がっている右足の姿があった。

「やだやだやだやだやだやだっ！」

葵は激痛を堪えてコントローラーを握り直す。敵が再び迫っていたのだ。

逃げなきゃ、逃げなきゃ！ 死んじゃう！ 殺される！ 嫌だっ！！

このままでは死ぬ。葵はそう直感していた。だが、焦りと恐怖と激痛により冷静な操作など出来る訳もなく敵キヤラから逃げることは出来そうもなかった。

「いやあーっ！！」

葵は恐怖を抑えられなくなり、コントローラーを投げ捨て頭を抱えて強く目を瞑った。

……あれ？

どれくらいそうしていただろうか。葵の体に再び新しい激痛が走ることはなかった。葵はおそろおそろ目を開ける。すると

「にゃーっ」

ミケ猫がゲーム機のリセットボタンを踏みながら、葵を見て鳴いていた。

画面には何も映し出されてはおらず真っ暗になっている。

……助かった……の？

葵は一気に体から力が抜け落ちた。ソファーに深く腰を沈めて泣き出す。

それは激痛による涙か安堵による涙か。

「ミケえ、ありがとうありがとう。あんたは私の命の恩人よおー」

ミケ猫を抱えて葵はミケにほお擦りをしようとした。しかし

にゃーお、みゃあーお！

紅く染まったミケ猫が鳴く。

扇風機の風が床に置かれていた説明書のページをパラパラと捲る。

決してプレイ中にリセットしないで下さい。

元々は連載で書いていた作品を短編に練り直し投稿した俺の作品これで本家に迫れるだろうか。俺はドキドキしながら、みんなの反応を待った。

つづく

呪いのゲームソフト【vsマイナー】（後書き）

次回から物語は動き始めます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2223v/>

本家作家、マイナー作家

2011年10月9日11時01分発行